



SPARC® Enterprise M8000/M9000サーバ プロダクトノート

XCP 1040 版

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



Please
Recycle



Adobe PostScript

インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

はじめに	vii
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのサポートについて	vii
技術サポート	vii
ソフトウェアリソース	vii
マニュアルへのアクセス	viii
コメントの送付先	viii
改版記録	ix
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート	1
サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン	1
パッチに関する情報	2
必須パッチ	2
既知の問題	3
一般的な機能の問題と制限	3
XSCFU二重化機能に伴う留意事項	5
ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題	6
特定の問題と回避方法	6
ハードウェアマニュアルの変更予定	6
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル』の訂正	9
拡張筐体付きシステムの電源投入／切断の手順	9

ソフトウェアに関する問題	11
XCPに関する特定の問題と回避方法	11
Solarisに関する特定の問題と回避方法	12
ターゲットボードのカーネルメモリの識別	19
ソフトウェアマニュアルの変更予定	20

はじめに

本書では、SPARC® Enterprise M8000/M9000サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。旧版からの変更事項は、ixページの「[改版記録](#)」を参照してください。

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのサポートについて

技術サポート

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのドキュメントで取り上げられていない技術上の問題または質問がありましたら、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバにはSolaris™ オペレーティングシステム(OS) およびSun Java™ Enterprise System softwareがプレインストールされています。

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのソフトウェアリソースについては、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

注 – 最新のパッチ情報は以下を参照してください。

日本語サイト

<http://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/index.html>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/global/support/software/security/products-s/patch-info/>

インストールに関する情報とREADMEファイルもパッチと一緒にダウンロードされます。

マニュアルへのアクセス

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのインストレーション、管理、使用のための手順は、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルセットに示されています。マニュアルセットは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

注 – 本書で説明する情報は、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

Solaris 関連のマニュアル

<http://www.sun.com/documentation>

コメントの送付先

本マニュアルに関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を営業担当者または当社技術員にお知らせください。

なお、コメントをお寄せいただくときは、対象となるドキュメントの名称およびマニュアル番号もあわせてお知らせください。

改版記録

版数	変更箇所	変更内容
05	ハードウェアマニュアルの変更予定	「ハードウェアマニュアルの変更予定」に記載事項を追加
	Solaris に関する特定の問題と回避方法	CR ID 6459540の回避方法を変更

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート

本書では、SPARC® Enterprise M8000/M9000サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。本書は、以下の内容を含んでいます。

- サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン
- パッチに関する情報
- 既知の問題
- XSCFU二重化機能に伴う留意事項
- ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題
- ハードウェアマニュアルの変更予定
- ソフトウェアに関する問題
- ソフトウェアマニュアルの変更予定

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

本リリースでは、次に示すバージョンのファームウェアおよびソフトウェアがサポートされています。

- XSCF Control Package (XCP) 1040以降

注 – ご使用の製品にXCP 1040より古い版数がプレインストールされている場合は、XSCF Control Package(XCP) 1040以降にアップデートする必要があります。ブラウザユーザーインターフェース(BUIとも呼ばれます)を使用してXCPをインポートし、XSCF Shellのflashupdateコマンドを使って新しい版を適用してください。

注意 – CR ID #6534471 : カーネルメモリ内ラージ・ページの扱いが不適切なため、予期せぬパニックが発生することがあります。本プロダクトノートに記載されているCR ID #6534471 の回避方法を実施するか、もしくはパッチが入手可能かどうか確認し、ただちにインストールしてください。

- 本サーバは、Solaris 10 11/06 以降のSolarisをサポートしています。

パッチに関する情報

ソフトウェアに関する情報については、「Solarisに関する特定の問題と回避方法」「POSTに関する特定の問題と回避方法」「OpenBoot PROMに関する特定の問題と回避方法」「XSCFに関する特定の問題と回避方法」を参照してください。

必須パッチ

以下がSPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの必須パッチとして提供されています。

- 118833-36 (125100-04の前に118833-36をインストールしてください。)
- 125100-04以降
- 120068-03以降
- 123839-07以降
- 125424-01以降
- 125075-01以降

注 – viiページの「ソフトウェアリソース」を参照し、最新パッチの入手方法を確認してください。インストールに関する情報とREADMEファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。

既知の問題

ここでは、本リリース時に既知の問題を説明します。

一般的な機能の問題と制限

- Dynamic Reconfiguration (動的再構成、DR)は、次の場合においては、DRの `addboard`、`deleteboard`、`moveboard` コマンドの以下の制約により、推奨されません。
追加情報およびソフトウェアサポートについては、営業担当者または当社技術員にご連絡ください。
 - カーネルメモリを搭載したターゲットボード(SB/XSB)。
19ページの「[ターゲットボードのカーネルメモリの識別](#)」を参照してください。
 - 特定のカードに一部制限があるため、オプションI/Oカードを搭載したターゲットボード(SB/XSB)。



注意 – サポートされていない構成で DR を行うと、ドメインパニックやシステムハングを起こす場合があります。

- ZFS ファイルシステムを使用したドメインは DR を行うことができません。
- PHP機能は、本リリースでは利用できません。追加情報とソフトウェアのサポートについて営業担当者または当社技術員にお問い合わせください。
- IOUA(基本IOカード)の搭載は、1 ドメインあたり6枚までです。
- SPARC Enterprise M8000 およびM9000 サーバでは、`eXtended System Control Facility (XSCF)` ユニット (サービスプロセッサ) の二重化構成はサポートしていません。
- CD-RW/DVD-RWドライブユニットとテープドライブユニットを同時に使用しないでください。
- Solaris動作中に `cfgadm(1M)` コマンドを使用して、CD-RW/DVD-RW ドライブユニットおよびテープドライブユニットのドメインへの組み込み、もしくは切り離しは行わないでください。
CD-RW/DVD-RWドライブユニット、またはテープドライブユニットを使用される場合は、ドメインをブートする前に、XSCFの`cfgdevice(8)`コマンドにて、ユニットを組み込んでください。

- XSCF Webブラウザインターフェース (BUIとも呼ばれます) は、本リリースでは機能の一部のみを使用できます。使用可能になっているのは、XSCFファームウェアのインポートおよびsnapshotのFullログセットの採取機能のみです。これ以外の操作には、サービスプロセッサおよびドメインでコマンドラインインターフェース (CLI) を使用してください。
- Capacity on Demand (COD)機能はサポートしていません。
- XCPファームウェアをアップデートする場合は、事前にすべてのドメインの電源を切断してください。
- 外部電源制御装置はサポートしていません。
- 回線切替機はサポートしていません。

XSCFU二重化機能に伴う留意事項

XSCFUの二重化機能がサポートされるまでのあいだ、ドキュメントの記述と実際の動作で以下の点が異なります。

- 基本筐体用XSCFユニット#1(XSCFU_B#1)および拡張筐体用XSCFユニット#1(XSCFU_C#1)のREADY LEDが点滅を続け、点灯に変化しません。
- 基本筐体用XSCFユニット#1(XSCFU_B#1)には、シリアルケーブル、LANのいずれを使用してもログインすることができません。
- XSCFのshowhardconf(8)を使用した場合、基本筐体用XSCFユニット#1(XSCFU_B#1) および拡張筐体用XSCFユニット#1 (XSCFU_C#1)に関して、以下のように表示されます。
XSCFU_B#1 Status:Normal,Offline; Ver:0000h; Serial;;
+ FRU-Part-Number;;
XSCFU_C#1 Status:Normal,Offline; Ver:0000h; Serial;;
+ FRU-Part-Number;;
- XSCFのswitchscf(8)は以下のメッセージを表示して異状終了します。
"XSCF cannot be switched because the other XSCF is not available."
- XSCFのapplynetwork(8)使用時、以下のメッセージが表示されますが、無視しても差し支えありません。
"The other XSCF could not apply the network settings."
- XSCFの次のコマンドを使用した場合、"Cannot communicate with the other XSCF. Check the other XSCF's state."というメッセージが表示されますが、無視しても差し支えありません。
対象となるコマンド:showhostname(8), setssh(8), settelnet(8), setntp(8), sethttps(8)
- 基本筐体用XSCFユニット#1 (XSCFU_B#1) にLANケーブルを接続しないでください。
ただし、SPARC Enterprise M9000サーバで拡張筐体を接続する場合は、XSCFU_B#1と拡張筐体用XSCFユニット#1(XSCFU_C#1)をデータケーブル(注)で接続してください。

注 – データケーブル; 基本筐体と拡張筐体のXSCFユニット同士を接続するための各コネクタに接続されるケーブル

- 基本筐体用XSCFユニット#1(XSCFU_B#1) のRemote Cabinet Interface(RCI)機能はサポートしていません。
基本筐体用XSCFユニット#1(XSCFU_B#1)へRCI装置を接続および設定しないでください。

ハードウェアのインストールおよびサービスに関する問題

ここでは、ハードウェアに関する問題と回避方法を示します。

特定の問題と回避方法

表 1 は既知のハードウェアの問題と回避方法を示します。

表 1 特定の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6433420	ブート中、ドメインコンソールがMailbox timeoutまたはIOCB interrupt timeout errorを表示することがあります。	OBP (OK)プロンプトからreset-allコマンドを発行し、リポートしてください。
6488846	ブート中、ドメインコンソールがSG(X)PCI2SCSIU320-Z SCSIコントローラI/Oカードのchecksum errorを表示することがあります。	最新のコントローラカードファームウェアが提供されているかご確認ください。

ハードウェアマニュアルの変更予定

表 2 では、今後のマニュアルの変更予定を示します。

表 2 マニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに関するすべてのドキュメント		DVD という表記は、すべてCD-RW/DVD-RWと読み替えてください。

表 2 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要	1-7	「表1.1 サーバの仕様」 主記憶 (メモリモジュール) に8GB DIMM搭載時の最大メモリ容量が記載されていますが、現時点では8GB DIMMを搭載することはできません。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要	1-15	「1.3.3 I/Oユニット」 LANポートの種類について、1000Base-T/100Base-TX/100Base-Tと記載されていますが、正しくは1000Base-T/100Base-TX/10Base-Tです。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要	1-19	「1.5.3 SPARC Enterprise M9000 サーバ (拡張筐体) オプション」 SPARC Enterprise M9000 サーバ (拡張筐体) の最大メモリ容量について、最大2Bメモリと記載されていますが、正しくは最大2TBメモリです。 但し、ここに記載されている最大メモリ容量は8GB DIMM搭載時のものであり、現時点では8GB DIMMを搭載することはできません。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル	4-2	「4.2.1.2 PCI カードの切り離し」 以下の注意文を追加します。
		<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">⚠ 注意</div> <div> <p>注意 – PCI カセット部で LAN ケーブルなどを抜く時に、コネクタのロック部まで手が入らない場合は、マイナスドライバーでロック部を押してケーブルを抜いてください。無理やり指を入れると PCI カードが破損する恐れがあります。</p> </div> </div>
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル	4-16	「4.7 M9000 拡張筐体付きで二系統受電の場合の電源投入・切断順序」 変更した内容は、9ページの「 拡張筐体付きシステムの電源投入／切断の手順 」を参照してください。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル		「停止交換」 「全ドメインに対してシャットダウン処理が行われ、電源が切断されます。」という記述は、「全ドメインに対してOSのシャットダウン処理が行われた後、電源切断処理が行われます。」と読み替えてください。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル		「停止交換」 「シャットダウン処理が終了したことをオペレーターパネルのPOWER LED (緑) が消灯したことにより確認します。」という記述は、「電源切断処理が終了したことをオペレーターパネルのPOWER LED (緑) が消灯したことにより確認します。」と読み替えてください。

表 2 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	10-1 11-1	「第10章 オペレーターパネルの交換」 「第11章 XSCF ユニットの交換」 以下の文章を追加します。 重要 XSCFユニットとオペレーターパネルを同時に交換すると、システムが正常に動作しなくなります。showhardconfコマンドまたはshowstatusコマンドで先に交換した部品が正常であることを確認してから、次のFRUの交換を行ってください。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	13-3	「13.2 活電交換の手順5」 以下の注意文を追加します。 注意 - LAN ケーブルなどを抜く時に、コネクタのロック部まで手が入らない場合は、マイナスドライバーでロック部を押してケーブルを抜いてください。無理やり指を入れると PCI カードが破損する恐れがあります。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	13-11	「13.3 停止交換の手順7」 以下の注意文を追加します。 注意 - LAN ケーブルなどを抜く時に、コネクタのロック部まで手が入らない場合は、マイナスドライバーでロック部を押してケーブルを抜いてください。無理やり指を入れると PCI カードが破損する恐れがあります。

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービス スマニュアル』の訂正

次の情報は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービススマニュアル』の情報よりも優先されます。

拡張筐体付きシステムの電源投入／切断の手順

拡張筐体付きシステムの場合、メインラインスイッチを投入または切断するときには、必ず以下の順序で行います。

・電源投入

1. 拡張筐体のメインラインスイッチをすべて投入します。
二系統受電用に電源筐体が接続されている場合は、そのメインラインスイッチもすべて投入します。
2. 基本筐体のメインラインスイッチをすべて投入します。
二系統受電用に電源筐体が接続されている場合は、そのメインラインスイッチもすべて投入します。

・電源切断

1. 基本筐体のメインラインスイッチをすべて切断します。
二系統受電用に電源筐体が接続されている場合は、そのメインラインスイッチもすべて切断します。
2. 拡張筐体のメインラインスイッチをすべて切断します。
二系統受電用に電源筐体が接続されている場合は、そのメインラインスイッチもすべて切断します。

その他の修正

変更箇所	変更内容
<p>「第20章 20.2節 バックプレーンの停止交換手順10 注意文」</p> <p>バスバーの取り付けトルクは (82kg.cm) にしてください。電源バーを取り付ける際のトルク値は、M8 ボルトは8.24 N.m (84 kg.cm)、M6 ボルトは3.73 Nom (38 kg.cm) です。</p>	<p>電源バーを取り付ける場合、ねじサイズに合わせて、下記トルク値で行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none">- M8 ボルトは8.24 N.m (84 kgf.cm)- M6 ボルトは3.73 N.m (38 kgf.cm)
<p>「第21章 21.1節 センサーユニットの概要」</p> <p>図 21.1、図 21.2、および図 21.3 は、それぞれSPARC Enterprise M8000 サーバ、SPARC Enterprise M9000サーバ (基本筐体)、およびSPARC Enterprise M9000 サーバ (拡張筐体付き) のセンサーユニットの搭載位置を示します。</p>	<p>図 21.1、図 21.2、および図 21.3 は、それぞれSPARC Enterprise M8000 サーバ、SPARC Enterprise M9000サーバ (基本筐体)、および拡張筐体付きSPARC Enterprise M9000サーバの基本筐体側のみのセンサーユニットの搭載位置を示します。</p>

ソフトウェアに関する問題

ここでは、ソフトウェアに関する問題と回避方法を示します。

XCPに関する特定の問題と回避方法

表 3 に、既知の問題とこれらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 3 XCP に関する特定の問題と回避方法

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-004	XCPファームウェアをアップグレードする場合は、ドメインの電源が切れている必要があります。	flashupdate コマンドを実行する前に、ドメインの電源を切ってください。
RTIF1-070418-005	ブート中のSCFにログインすると、XSCF>プロンプトの代わりにbash\$プロンプトを取得し、ほとんどの操作を実行できなくなることがあります。	bash\$プロンプトをログアウトし、SCFがブートを完了するまで待ってください。
RTIF1-070418-009	XSCFが動作中、XSCFコンソールにOOM Killのエラーメッセージが表示され、プロセスダウンやwatchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリポートする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、rebootxscf(8) コマンドによりXSCF を再起動するか、全ドメインを停止後システムの電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。
RTIF1-070418-010	showdomainstatus -a コマンドではドメインステータスがPowered Offと表示されますが、showboards -a コマンドではドメインがテスト中と表示されます。	showboardsコマンドを使用して、システム電源のステータスを確認してください。 showdomainstatusコマンドでは、正しいステータスを表示するのに、より時間がかかります。
RTIF1-070418-011	コンフィギュレーションデータをアップデートするコマンドに、実行に比較的長い時間を要するものがあります。	set* コマンドをキャンセルしないでください。これらのコマンドはハングしたように見えますが、最終的には約30秒以内に完了します。
RTIF1-070418-012	障害(memory.block.ue)が周期的に見つかり、報告されます。	あるDIMMの中にuncorrectable error が存在しており、このDIMMは交換されるべきです。
RTIF1-070418-021	moveboard(8)コマンドを使用してCOD boardを移動しようとする、失敗することがあります。	moveboardコマンドの代わりに、deleteboardコマンドとaddboardコマンドを使用してください。

表 3 XCP に関する特定の問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-022	XSCFファームウェアが自身をモニターし、なんらかの異常を検出すると、強制的にレポートします。	XSCF Unitにレポートを完了させてください。およそ5分以内に、通常動作に戻ります。
RTIF1-070418-023	rebootxscfを使用すると、process down errorになることがあり、これはMSG ID SCF-8005-NEのFMA eventの可能性がります。	このイベントは、無視してください。
RTIF1-070418-025	showaudit all コマンドが、データベースのクリア後、policy sectionにdefaultsの長いリストを表示します。	以下の設定で、データベースをアップデートしてください: setaudit -a opl=enable setaudit -a opl=default

Solarisに関する特定の問題と回避方法

表 4 に、既知の問題とこれらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 4 Solaris に関する特定の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6303418	SPARC Enterprise M9000 において、1ドメインあたりの CPUスレッド数が170を超えた場合、ハングアップする場合があります。	170CPUスレッドを超えないようにしてください。 Solaris OS のpsradm(1M)コマンドを使用して余分なCPUスレッドをオフラインし、CPUスレッドの数を1 CPUコアあたり1つに制限してください。 例えば、すべての奇数の CPU スレッドをオフラインにするなどです。
6416224	単一のNICカードの接続数が5,000を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。	複数のNICカードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。
6440061	ドメインのコンソールに、 ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure)というメッセージが表示されることがあります。	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6441349	システム内でI/Oエラーが発生したときに、システムがハングすることがあります。	現時点では、有効な回避方法はありません。

表 4 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6449315	Solarisの <code>cfgadm</code> コマンドを実行しても、SPARC Enterprise M8000/M9000サーバ上のドメインからDVDドライブが構成解除されません。	<code>cfgadm (1M)</code> コマンドでDVDドライブを構成解除するには、事前にボリューム管理デーモン (<code>vold</code>) を無効にする必要があります。 <code>vold</code> を無効にするには、 <code>/etc/init.d/volmgt stop</code> コマンドを発行してデーモンを停止します。デバイスを取り外したり取り付けた後は、 <code>/etc/init.d/volmgt start</code> コマンドを発行してデーモンを再起動します。
6459540	SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの内蔵テープドライブユニットがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。	以下の定義を、 <code>/kernel/drv/st.conf</code> に追加してください。 <pre>tape-config-list = "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3;</pre>
6466617	PCI-E スロットのホットプラグ操作が速すぎると、PCI リーフのリセットが中断されて障害が発生し、 <code>cfgadm: Component system is busy</code> エラーが発生します。	<code>cfgadm -c</code> コマンドを続けて発行するとき、数秒の間隔をおいて発行してください。
6472153	SPARC Enterprise Mx000 サーバ以外のサーバ上にSolarisのinstall imageまたはboot imageを作成し、それをSPARC Enterprise Mx000 サーバ上で使用すると、コンソールのTTYフラグが正しく設定されません。これは、コンソールのハングを引き起こすことがあります。	SPARC Enterprise Mx000 サーバにtelnetで入り、コンソールのTTYフラグを以下のようにリセットします: <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre>
6481002	PCI-Expressカードを使用してネットワークからSolarisをインストールすると、パニックが発生することがあります。	Sun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter MMFカードまたはSun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter UTPカードを使用している場合は、これらのカードを使用してSolarisをインストールしないでください。代わりに、オンボードのGigabit Ethernetなど、他のネットワークデバイスを使用してください。
6485555	レースコンディションにより、オンボードのGigabit Ethernet NVRAMに障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	現時点では、有効な回避方法はありません。

表 4 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6496337	<p>uncorrectable error (UE) パニック後、 "cpumem-diagnosis" モジュールのロードに失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、通常このモジュールを使用しFMAによって自動的に診断されているイベントは、マニュアルでの診断が必要になります。</p> <p>例： SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007 PLATFORM: SUNW, SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ff-em7-d0</p>	<p>問題が発生した場合、以下を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 以下のファイルを削除してください。 # rm /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis 2. fmdサービスをリスタートしてください。 # svcadm restart fmd <p>問題を事前に回避する場合、 /lib/svc/method/svc-dumpadm の以下の場所に "rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis" を追加してください。</p> <pre># # We haven't run savecore on a dump device yet # savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis #</pre>
6498283	<p>ドメインで psradm を操作中に DR の deleteboard コマンドを使用するとシステムがパニックすることがあります。</p>	<p>回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。</p>
6499304	<p>Correctable Error (CE) が多数発生すると、CPU がオフラインにならず、予期しないメッセージがコンソール上に表示されます。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007 PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	<p>XSCFでCPUステータスを確認してください。</p>

表 4 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6502204	<p>CPU UEパニック後、ブート中に、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1-16-d0</p>	<p>予期しないメッセージが表示されたら、XSCFでドメインステータスを確認してください。</p>
6502750	<p>PCI hotplugによるカードの挿入または取り外しに対する通知メッセージが出力されないことがあります。</p>	<p>現時点では、有効な回避方法はありません。</p>
6505921	<p>I/O correctable errorが多数発生すると、多数のSUNOS-8000-ILメッセージがコンソール上に表示されます。</p>	<p>営業担当者または当社技術員にご連絡ください。</p>
6508432	<p>I/Oスロット1またはPCIボックスにおいて、Correctable エラー(CE)が大量に発生した場合、修正可能なエラーであるにも関わらず、ドメインがパニックすることがあります。</p>	<p>/etc/system に以下の設定を行い、ドメインをリブートしてください。 <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</pre></p>
6508434	<p>PCI Hot Plugにより、PCI-Xカードの増設およびPCI-Xの交換を行うとドメインがパニックする場合があります。</p>	<p>PCI Hot Plug 機能により、同一スロット上のPCI-Xカードの種類を変更しないでください。</p>
6509337	<p>s10s_u3WANブートに失敗し、サーバが「416: Requested Range Not Satisfiable」を返しました。</p>	<p>現時点では、有効な回避方法はありません。</p>
6510779	<p>大規模シングルドメイン構成上、システムが誤って非常に高い負荷平均を報告することがあります。</p>	<p>回避方法はありません。</p>
6510861	<p>Dual-Channel Ultra320 SCSI Card (SE0X75C2F,SE0X75C2X)を搭載している場合、correctable error (CE) が発生するとパニックします。</p>	<p>Dual-Channel Ultra320 SCSI Card (SE0X75C2F,SE0X75C2X)を搭載した場合に、これらのエラーをマスクするには、以下を/etc/system のファイルに追加してから、ドメインをリブートしてください: <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1</pre></p>

表 4 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6511374	システム構成変更後、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。 例: WARNING: Translation error source /LSB0/B0/0, PA 3c00000000, target /LSB0/B0/20000000	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6515648	dr@0:SB1::memoryの失敗時、「Replumb Failed」の問題が発生します。	DR操作が完了したら、手動で設定できます。インターフェースを手動で再設定する手順/プロセスの例は、次のとおりです。 # ifconfig interface plumb xxx.xxx.xxx.xxx netmask + broadcast + up # ifconfig interface group group-name # ifconfig interface addif xxx.xxx.xxx.xxx -failover deprecated up この回避方法は、/etc/hostname.<interface>ファイルがIPMPグループに対して正しく設定されており、修正の必要がないことを前提としています。上述の例で使用しているIPアドレスは、以前使用していたIPアドレスおよび/etc/hostname.<interface>ファイルと一致していなければなりません。
6519290	スワップデバイス上の大量のI/OがI/O性能をはるかに上回ることによって、システムがハングしたように見える場合があります。必要とされるI/Oの量は、メモリの不足や/tmpの頻繁な使用など、さまざまな方法で生成される可能性があります。	以下を /etc/system のファイルに追加してから、ドメインをリブートしてください。 set maxfastscan=0x2000
6520990	Dynamic Reconfiguration(DR) によるカーネルボードの deleteboard を実施した場合、ドメインがパニックすることがあります。	この問題を回避するために、以下を /etc/system のファイルに追加してからリブートしてください。 set drmach:fmem_timeout = 30
6522017	ZFSファイルシステムを使用しているドメインは、DRを使用できません。	回避方法はありません。
6522433	CPUハードエラーが発生した後、ドメイン上の fmdump(1M)で表示される故障コンポーネントが誤って表示されることがあります。	XSCFでシステムステータスを確認してください。
6527781	2つのドメイン間をDVD/DATドライブを移動するときに、cfgadmコマンドで障害が発生します。	有効な回避方法はありません。DVD/テープドライブを再構成するために、問題が検出されたドメインでreboot -r を実行してください。

表 4 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6529714	1台のI/Oポートに4枚を超えるX4447A-ZカードまたはX1027A-Z1カードを組み込もうとすると、警告メッセージが表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6530178	DR のaddboard コマンドがハングする場合があります。問題が検出されると、それ以上のDR操作はブロックされます。復旧にはドメインのリポートが必要です。	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6530288	cfgadm(1M) で表示される Ap_Id が正しく表示されないことがあります。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6530753	PCIボックスのPCIスロットの一部が、通常のブート動作中に表示されません	以下の操作のいずれかを使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 <ul style="list-style-type: none"> • boot -r (at open boot prompt) • devfsadm -C (at Solaris prompt) • cfgadm (twice at Solaris prompt)
6531036	ネットワークインストール後、エラーメッセージの network initialization failed が繰り返し表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。メッセージを無視してください。
6531668	DR中にホットプラグ処理を多重で実行すると、システムがハングします。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscp サービスの起動が失敗することがあります。 <pre>svc:/platform/sun4u/dscp:default: Method "/lib/svc/method/svc-dscp start" failed with exit status 95.</pre> <pre>svc:/system/filesystem/volfs:default: Method or service exit timed out. Killing contract 59.</pre>	ドメイン起動後にサービスを再起動してください。 本問題を事前に回避する場合は以下を設定してください。 <pre># svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count:300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count:300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs</pre>
6534471	ドメインがパニックすることがあります。	以下を /etc/system のファイルに追加してから、ドメインをリポートしてください。 <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre>
6535564	DR で追加したシステムボード上の PCI スロット #0, #1 またはExternal IO Expantion Unit に対する PCI hot Plug が失敗することがあります。	回避方法はありません。PCI hot Plug の代わりに DR によりカードの追加・削除を実施してください。

表 4 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6536564	I/Oデバイスでハードエラーが発生した場合、Solaris Fault Management Architecture が正しい診断をしないため、XSCF 上の showlogs(8) やshowstatus(8) コマンドが誤った故障箇所を表示することがあります。	<p>この問題を回避するために、以下をドメインで実行してください。</p> <pre># cd /usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd</pre> <p>上記を設定後、以下のメッセージが表示された場合は、営業担当者または当社技術員にご連絡ください。</p> <p>例 :</p> <p>SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc</p>
6537511	セキュリティテスト実行中にBluetoothパートナーがハングします。	アプリケーションサーバを再起動してください。
6539084	Sun製のPCIe Quad-port Gigabit Ethernet アダプターUTPカード(X4447A-Z)がリポート中にパニックすることがあります。	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。
6542632	driver attachが失敗すると、PCIeモジュールにメモリリークが発生します。	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。
6545685	OSコンソールに以下のメッセージが表示された場合、以降のリポートにおいて、メモリ縮退もしくはXSB縮退が発生することがあります。 例 : mc-opl: WARNING: mc-opl rewrite timeout on /LSB0/B0	<p>/etc/systemに以下の設定を行い、ドメインをリポートしてください。</p> <pre>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 10000</pre>

ターゲットボードのカーネルメモリの識別

ターゲットボード(SB/XSB)がカーネルメモリを搭載している場合、Dynamic reconfigurationの使用は推奨しません。

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -dコマンドの出力を示したもので、0はdomain_idです。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----

```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	8192	0	0x0000000000000000	24576			
00	00-2	8192	1674	0x000003c000000000	24576			
00	00-3	8192	0	0x0000034000000000	24576			

```
...
```

4列目の「perm mem MB」のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、1674MBのカーネルメモリが00-2にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合、deleteboardコマンドまたはmoveboardコマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

3. ボードにカーネルメモリがある場合、「n」と入力してDR コマンドを中止します。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:n
disconnect SB5
DR operation canceled by operator.
XSCF>
```

ソフトウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのソフトウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のソフトウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

表 5 に、マニュアルの変更予定を示します。

表 5 マニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに関するすべてのドキュメント		すべてのDVD という表記は、CD-RW/DVD-RWに読み替えてください。
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーガイド	D-5	付録D D.1項の「XSCF のトラブルシューティングおよびFAQ」のFAQに次のような記述がありますが、OSダンプのためのオプションは「request」ではなく「panic」です。 誤記： まず、XSCF シェルからrequest オプションでreset (8) コマンドを実行し、OS ダンプを指示します。
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル	ioxadm(8) コマンド	ioxadm(8)コマンドに必要なユーザー権限は、以下のとおりです。 ユーザー権限 オペラント platop env, list platadm env, list, locator, poweroff, poweron fieldend env, list, locator, poweroff, poweron, reset, settled ここでの訂正は、特別に断りがない限りマニュアルページにも適用されます。また、マニュアルページの情報よりも優先されます。

表 5 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9 000 サーバ XSCF リファ レンスマニュアル	showldap(8) マニュアルペ ージ showlookup(8) マニュアルペ ージ showcodusage (8) マニュアル ページ showemailrep ort(8) マニユ アルページ	ishowldap、showlookup、showcodusageおよび showemailreport のマニュアルページでは、これらのコマン ドがfieldeng 権限で使用できることは記載されていません。
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9 000 サーバ XSCF リファ レンスマニュアル	setaudit(8) マニュアルペ ージ showaudit(8) マニュアルペ ージ	setaudit および showaudit のマニュアルページでは監査クラ スに関する情報に誤りがあります。以下に監査クラスおよび その値を記載します。 ACS_SYSTEM 1 ACS_WRITE 2 ACS_READ 4 ACS_LOGIN 8 ACS_AUDIT 16 ACS_DOMAIN 32 ACS_USER 64 ACS_PLATFORM 128 ACS_MODES 256
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9 000 サーバ アドミニスト レーションガイド		IOUのオンボードデバイスカード(IOUA)のホットプラグは、 本リリースではサポートされていません。

